

## 横浜市感染症発生動向調査報告 5月

### 《今月のトピックス》

- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。
- 流行性角結膜炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が例年より多くなっています。

### 全数把握の対象

#### 【5月期に報告された全数把握疾患】

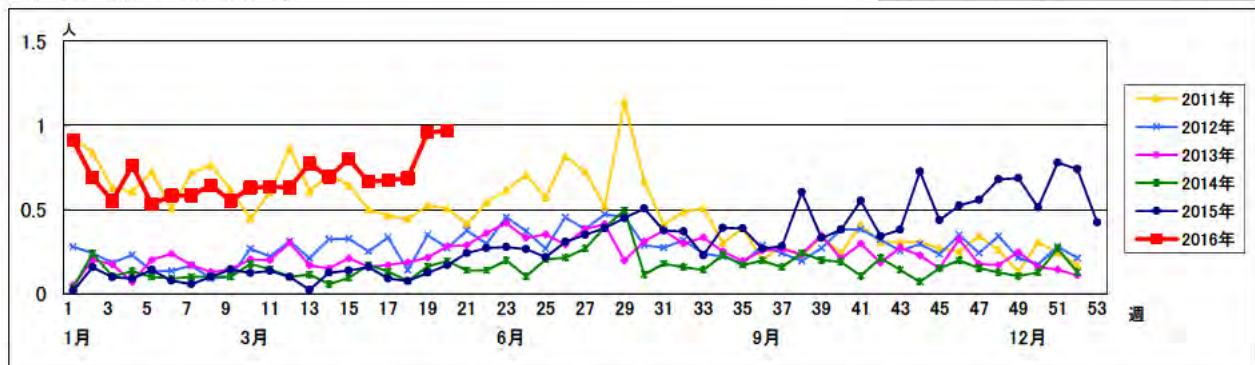
腸チフス	2件	急性脳炎	3件
E型肝炎	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
デング熱	3件	後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	10件
ウイルス性肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	梅毒	13件

- 腸チフス:2件の報告があり、海外(バングラデシュ、ミャンマー)での経口感染が推定されています。
- E型肝炎:2件の報告がありましたが、国内での経口感染が推定されています。
- デング熱:3件の報告があり、いずれも海外(インドネシア・バリ島)での感染が推定されています。
- レジオネラ症:3件の肺炎型の報告があり、うち1件は水系感染と推定、2件は感染経路等不明でした。
- ウイルス性肝炎:1件のCMVの報告があり、感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:3件の報告があり、うち2件は以前からの保菌で、1件は感染経路等不明です。
- 急性脳炎:2件の幼児(ロタウイルス)、1件の児童(病原体不明)の報告がありました。ロタウイルスの2件は国内での感染、原因不明の1件はサイパン島での経口感染が推定されています。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:2件の高齢者の報告は神奈川県での感染で、1件は創傷感染、1件は飛沫・飛沫核感染が推定されています。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):異性間の性的接触によるAIDSの報告が1件、同性間の性的接触による無症状病原体保有者の報告が1件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:幼児は1件の報告があり、4回のワクチン接種歴が確認されました。成人例は3件の報告があり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。高齢者は6件の報告があり、うち1件は1回のワクチン接種が確認され、もう5件はワクチン接種歴が確認できませんでした。
- 水痘(入院例に限る):成人例の報告が1件あり、1回のワクチン接種歴がありました。
- 梅毒:13件の報告(無症状病原体保有者4件、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件、晩期顕症梅毒1件)があり、うち12件が国内感染例で、1件は感染地域不明でした。感染経路は11件が性的接触、1件が感染経路不明、1件は40年前に手術歴(詳細不明)があります。

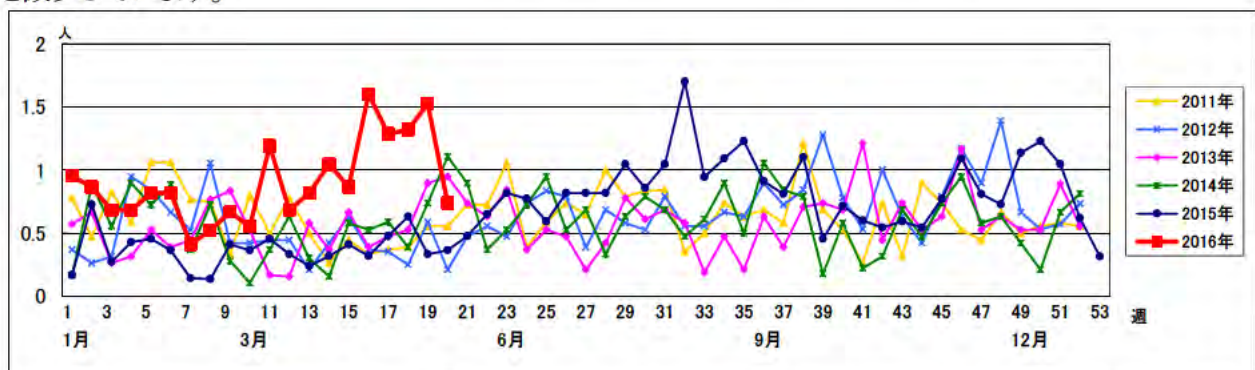
## 定点把握の対象

平成28年 週一月日対応表	
第17週	4月25日～5月1日
第18週	5月2日～5月8日
第19週	5月9日～5月15日
第20週	5月16日～5月22日

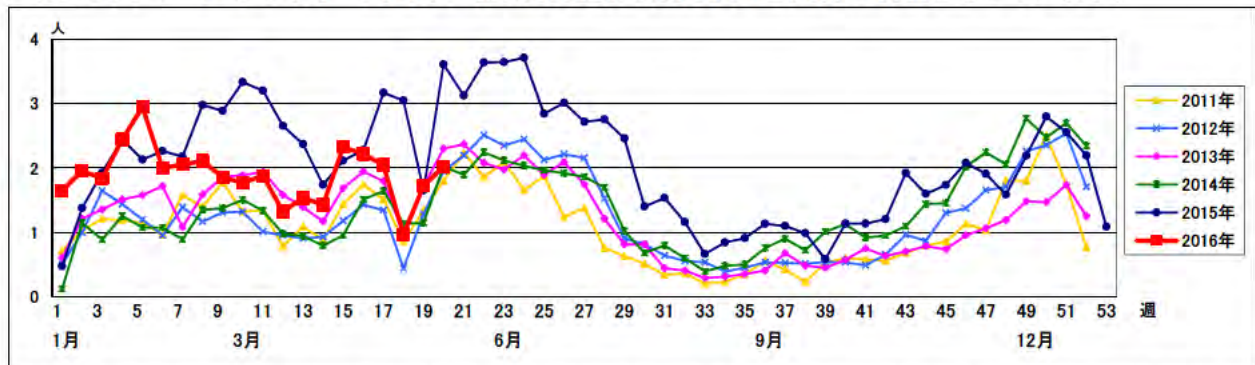
- 1 流行性耳下腺炎: 第20週で定点あたり0.97と、例年に比べて報告が多い状況が続いています。



- 2 流行性角結膜炎: 第19週で1.52と例年に比べて報告が多い状態が続いていましたが、第20週では0.74と減少しています。



- 3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第15週で2.32、第16週で2.22と例年に比べて報告が多い状態が続いていましたが、ゴールデンウィークに減少後、第20週は2.02と例年と同様の報告となっています。



- 4 性感染症: 4月は、性器クラミジア感染症は男性が18件、女性が15件でした。性器ヘルペス感染症は男性が1件、女性が10件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が0件でした。
- 5 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎は第17週0.67、第18週0.00、第19週1.00、第20週0.33と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第17週0.67、第18週0.75、第19週0.75、第20週0.00と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 基幹定点月報: 4月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症11件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症および薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点39件、内科定点15件、眼科定点2件、基幹定点5件で、定点外医療機関からは23件でした。

6月9日現在、ウイルス分離15株と各種ウイルス遺伝子17件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(5月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	咽 頭 結 膜 熱 *2	無 菌 性 髄 膜 炎	流 行 性 耳 下 腺 炎	感 染 性 胃 腸 炎
アデノ 1型				1			
アデノ 2型	2			2			
アデノ 4型							1
インフルエンザ AH1pdm09型			2				1
インフルエンザ AH3型			1				
インフルエンザ B型山形系統			4				
パラインフルエンザ 3型	1						
ヒトメタニューモ	2	1	1				
ヒトコロナ*3		1					
ヒトボカ		1					
ムンプス					1	3	
ライノ	2	1	1				
ノロ							2
ロタ							1
合計	2 5	0 4	6 3	3 0	0 1	3 0	1 4

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

\*1:疑いを含む、\*2:アデノ感染症を含む、\*3:HCov 229E or NL63、HCov OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

5月の感染性胃腸炎は、基幹定点から12件、その他が3件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2)、チフス菌、サルモネラ(*S. Tompson*, *S. Enteritidis*, *S. Amagar*)が検出されました。チフス菌はバングラデシュとミャンマーからの帰国者から検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から6件、基幹定点から3件、その他からが13件でした。バンコマイシン耐性腸球菌は*vanA*遺伝子保有の*Enterobacter faecium*でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(5月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	5月			2016年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	12	3	0	36	12
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌		1			2	1
チフス菌		2			2	
サルモネラ		2	1		8	2
カンピロバクター						1
不検出	0	7	2	0	24	7

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	5月			2016年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	6	3	14	20	29	178
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	2		2		
	T4			1		
	T6			1		
	T12	1	1	3		1
	型別不能	1	1	9		2
B群溶血性レンサ球菌						1
G群溶血性レンサ球菌					2	1
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					4	
バンコマイシン耐性腸球菌			1			1
レジオネラ属菌						1
インフルエンザ菌						1
肺炎球菌			3		5	35
黄色ブドウ球菌	1			1		
結核菌			1			103
百日咳菌					1	
その他		1	3		7	13
不検出	1	2	4	3	10	19

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】